

ふるさと歴史散歩 六ヶ所村にもあった森林鉄道ツアー

令和2年6月21日(日)に六ヶ所村立郷土館主催「ふるさと歴史散歩 六ヶ所村にもあった森林鉄道ツアー」を開催しました。村内外から集まった29名の参加者たちは、二又地区の尾駈林道にある森林鉄道の軌道跡^{きどうあと}を散策し、鉄道の歴史や美しい自然を体感していました。講師の元森林鉄道職員 秋戸吉郎さんと元営林署職員 木村豊春さんからは当時の貴重なお話を聞くことができました。



ヒバ材の貯木場や車庫などがあった二又土場に集合し、森林鉄道ツアーがスタート！



二又土場には線路の枕木が残っており、当時の面影を感じることができました。



きょうだい橋台を見学しました。当時は老部川に橋を架け、その上をディーゼル機関車が走っていました。



ヒバ林の中を気持ち良さそうに散策する参加者たち。



講師の木村豊春さんによる解説。木の幹に貼ってある標示は山の住所のようなものだそうです。



1947年製の電話線の碍子がいしやレールが残っていました。



ヒバのチップの香りをかいてみると、心を落ち着かせてくれるような良い香りがしました。



薬剤庫を見学しました。ここには除草剤などが保管されていたそうです。

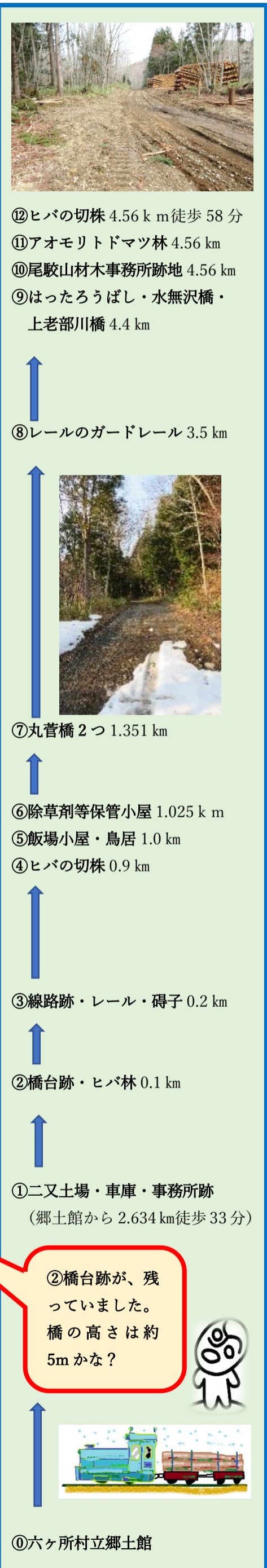


晴れ渡る青空のもと、参加者たちはキイチゴやキショウブなどの美しい草花を観察しながら、二又土場から丸管橋まで約 1.5 kmを散策しました。



旧横浜営林署管内尾駁林道 森林鉄道跡散策マップ

2020.6.21



参加者の皆さんの感想



なかなか村内を歩く機会がないので、いい経験になりました。またこのような機会があれば参加したいなと思いました。

水の音を聞きながら、木の香りを楽しみながら、楽しく歩けました！



「鉄道」という言葉にインパクトがありました。レールや碇子^{が い し}など実際の物を見られたのは感動でした。

新聞に記事が掲載されました

デーリー東北新聞社提供 2020年6月24日(水)掲載

つたえる地域 つながる地域

村立郷土館「ふるさと歴史散歩」



林業の隆盛に思いはせ 森林鉄道跡地を散策

六ヶ所 六ヶ所村立郷土館(鈴木浩館長)は21日、ヒバ材を運ぶ森林鉄道が走っていた同村二又地区の林道で、「ふるさと歴史散歩」を開催した。村内外から参加した29人が、鉄道のレール跡やヒバの切り株などを眺めながら、林業のかつての隆盛に思いをはせた。(藤村大地)

歴史散歩は村の名所や旧跡などを訪れることで、村の歴史に興味を持ってもらおうと定期的に開催。今回は森林鉄道を初めてテーマにした。鉄道は同村尾駸地区などの国有林から切り出された天然ヒバを運ぶため、最長約9キロが整備され、1964年までディーゼル機関車などが走っていたという。

散歩は機関車の車庫や作業員の事務所があった二又場からスタート。線路の保線員を務めていた同村二又の秋吉郎さん(82)が同行し、参加者は秋吉さんの解説を聞きながら、約1・3キロの山道を散策した。途中には外されたレールも残されており、参加者が興味深そうに触っていた。家族と参加した村立尾駸小1年の佐々木亜沙斗君(7)は「鉄道が大好きなので楽しかった。ここに機関車が走っていたと思うとわくわくする」と話していた。

参加者
森林鉄道のレールに触れる